

令和6年度（2024年度）

第79回北海道教育研究所連盟研究発表大会（網走大会） 兼 第66回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会



期 日

令和6年8月29日（木）・8月30日（金）

会 場

オホーツク・文化交流センター

主 催

北海道教育研究所連盟

主 管

網走地方教育研修センター

後 援

全国教育研究所連盟 北海道教育委員会
網走市教育委員会

目 次

I	開催要項	1
II	運営次第	2
III	第18次共同研究・学習会	3
IV	記念講演	6
V	対話・演習	7
VI	大会役員一覧	8

I 開催要項

1 趣 旨

北海道教育研究所連盟共同研究について研究協議を行うとともに、各加盟機関での教育研究、教員研修等の取組について交流・協議することにより、北海道教育の一層の充実・発展、並びに所員及び研究員、教職員の資質向上に資する。

2 主 催

北海道教育研究所連盟

3 主 管

網走地方教育研修センター

4 後 援

全国教育研究所連盟 北海道教育委員会
網走市教育委員会

5 期 日

令和6年（2024年）8月29日（木）、8月30日（金）

6 会 場

オホーツク・文化交流センター（〒093-0072 網走市北2条西3丁目3番地）

7 実施方法

Zoomを使用したハイブリット形式（参加者が会場への参集又はオンラインでの参加を選択する形式）による開催 ※オンラインでの参加は視聴のみ

8 参加対象

北海道教育研究所連盟加盟機関の所員及び研究員、教育関係者等

9 日 程

第1日 8月29日（木）

12:30	13:00	13:30	14:00	14:45	16:30
受付	開会式	全体 発表	全体 協議	記念講演	

第2日 8月30日（金）

9:15	9:45	12:05	12:15
受付	対話・演習		閉会式

10 内 容

(1) 全体発表・全体協議

第18次共同研究の経過報告

第18次共同研究の研究内容に関する協議

(2) 記念講演

演 題 「一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて

～自立した学習者を育成するための教育研究所・研修センターの在り方～」

講 師 国立教育政策研究所初等中等教育研究部長 藤 原 文 雄 様

(3) 対話・演習

タイトル 「『研修観の転換』の実現に向けて」

講師	独立行政法人教職員支援機構審議役	佐野 壽 則 様
	独立行政法人教職員支援機構研修プロデューサー	佐藤 悠 人 様
	独立行政法人教職員支援機構特別研修員	森 茂 之 様

Ⅱ 運営次第

【第1日 8月29日（木）】

1 開会式 13:00～13:30

(1) 開式の言葉

(2) 主催者挨拶	北海道教育研究所連盟委員長 (北海道立教育研究所長)	川 端 香代子
-----------	-------------------------------	---------

(3) 祝辞	全国教育研究所連盟委員長 (国立教育政策研究所長)	池 田 貴 城 様
--------	------------------------------	-----------

	北海道教育庁オホーツク教育局長	桑 原 知 己 様
--	-----------------	-----------

(4) 来賓紹介

(5) 閉式の言葉

2 全体発表・全体協議 13:30～14:45

第18次共同研究の経過報告

第18次共同研究の研究内容に関する協議

令和6年度（2024年度）共同研究推進委員会委員長 (網走地方教育研修センター研究員)	米 倉 完
--	-------

3 記念講演 14:45～16:30

演 題 「一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて」

～自立した学習者を育成するための教育研究所・研修センターの在り方～

講 師	国立教育政策研究所初等中等教育研究部長	藤 原 文 雄 様
-----	---------------------	-----------

【第2日 8月30日（金）】

1 対話・演習 9:45～12:05

タイトル 「『研修観の転換』の実現に向けて」

講師	独立行政法人教職員支援機構審議役	佐野 壽 則 様
	独立行政法人教職員支援機構研修プロデューサー	佐藤 悠 人 様
	独立行政法人教職員支援機構特別研修員	森 茂 之 様

2 閉 会 式 12:05～12:15

Ⅲ 第18次共同研究・学習会

1 研究主題

「一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて」

2 研究のねらい

各教育研究所・研修センターがより連携・協働できる体制を整備し、学校支援のために活用する、個別最適な学びと協働的な学びの実践事例の収集・提供をすることにより、子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力の向上に資する。

3 研究内容及び推進計画

(1) 研究内容

研究内容1 全ての子どもたちの可能性を引き出す 「個別最適な学び」と「協働的な学び」	研究内容2 子どもの成長を支える 連携・協働体制の構築
(1) 実践事例の収集 ※「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に係る実践事例等の収集 (2) 「実践事例バンク」の作成・運営 ※「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に係る実践事例等についての相互交流の場とする。 (3) 各教育研究所・研修センター相互のつながりを深めるICTを活用した連携・協働体制の構築 (4) 「実践事例バンク」を普及するためのリーフレット作成・周知 作成・収集する事例や研究内容に係る業務推進について	
(1) 「個別最適な学び」に関する授業実践例 ア 指導の個別化 子ども一人一人の特性・学習進度・学習到達度に応じた指導方法・教材等の工夫 イ 学習の個性化 子ども一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性に応じた学習活動や課題に取り組む機会の設定 (2) 「協働的な学び」に関する授業実践例 多様な他者と協働し、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す学習活動や場面の設定	(1) 各教育研究所・研修センターに蓄積された教育実践の共有 ア 専門性の高い研修の実践 イ 個々の学校のニーズに応じた研修支援 ウ 校種横断的な実践の推進に係る支援 ※これまで蓄積された教育実践を、クラウド等を活用して道研連加盟機関で共有する。 (2) 各教育研究所・研修センターの協働体制の構築 ア 複数の教育研究所・研修センターが連携した遠隔型研修の実施 イ 他の機関における公開研究授業等への参加

(2) 推進計画

	研究内容1	研究内容2
令和5年度 ＜1年次＞	○ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に目指した実践事例の収集 ○ 収集した実践事例の分析 ○ 「実践事例バンク」への掲載事例の収集・作成	○ 各教育研究所・研修センターに蓄積された効果的な教育実践の共有 ○ 共有する内容の精選及び共有する方法の検討
令和6年度 ＜2年次＞ ①5月17日(金) ②10月9日(水) ③1月10日(金) ※予定	○ 各域内の学校の実践事例の収集及び分析 ○ 「実践事例バンク」の運営、普及・還元 ○ リーフレットの作成	○ ICTを活用した各教育研究所・研修センターの教育実践の共有 ○ 複数の加盟機関が連携した研修や授業研究の計画・実施

令和7年度 ＜3年次＞	○ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた「実践事例バンク」の普及・還元 ○ リーフレットの配付 ○ 研究成果の普及・還元・指導資料（冊子等）のWebページ上での公開	○ ICTを活用した各教育研究所・研修センターの教育実践の普及・還元 ○ 複数の加盟機関が連携した研修や授業研究の実施 ○ 加盟機関の連携・協働体制の評価・改善
＜1～3年次＞	○ 所員学習会における所員の力量向上 ○ Web上で提供する内容の共同研究推進委員会における情報共有 ○ 研究発表大会における研究発表及び協議	

4 令和6年度＜2年次＞の取組

(1) 研究内容1 全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」

【2年次のゴール】1年次に収集した事例の評価・改善・実践

- 第1回共同研究推進委員会において、1年次の研究内容・収集した実践事例（授業のイメージ）に係り、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業のポイントについて交流・協議を行い、共有した。

「授業において大事にしたいこと」

A 子どもが「自分（たち）で学び取る」授業

→目的に合わせた端末の使い方や学習スタイルの選択等、学び方を学べる工夫

B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業

→必要感のある課題設定や単元（題材）計画、教師の発問や声かけの工夫

C 子どもが安心して、進んで取り組める授業

→学習の土台づくり（望ましい人間関係の構築、学習ルールや基本的・基礎的な知識及び技能、ICTのスキル等）

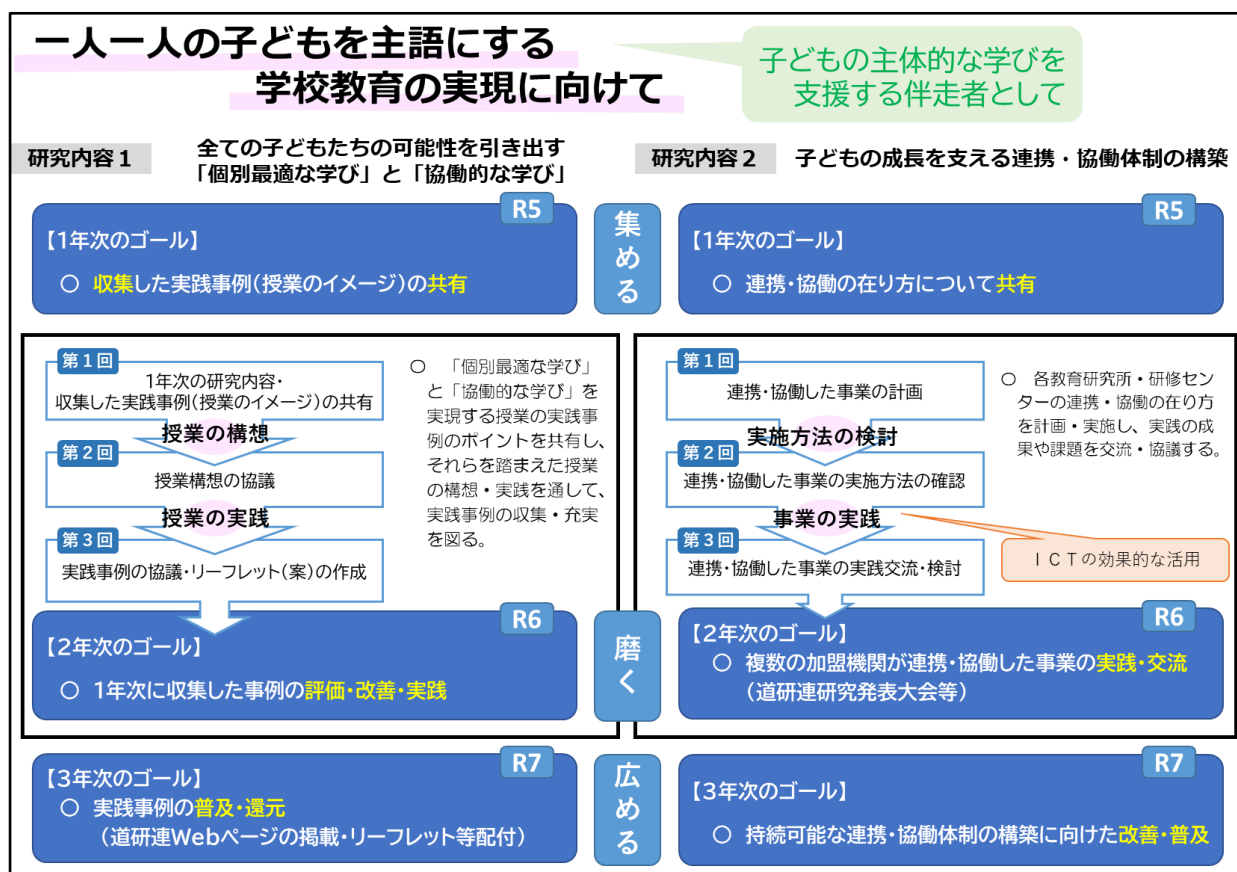
- 第2回共同研究推進委員会において、授業の構想を交流後、第3回までに実践を行い、実践事例を作成する。
- 第3回共同研究推進委員会において、実践事例の内容について交流・協議を行い、修正後、「実践事例バンク」に掲載する。「実践事例バンク」を普及するためのリーフレットの内容等を検討する。
- 次年度の配付に向けて、リーフレットを作成する。

(2) 研究内容2 子どもの成長を支える連携・協働体制の構築

【2年次のゴール】複数の加盟機関が連携・協働した事業の実践・交流

- 第1回共同研究推進委員会において、各教育研究所・研修センターの連携・協働の在り方に係り、現在の取組や今後考えられる取組について交流した。
- 第2回共同研究推進委員会において、連携・協働した事業の実施方法を確認後、第3回までに実践を行う。
- 第3回共同研究推進委員会において、連携・協働した事業の実践交流・検討を行う。

(3) 研究全体図



5 学習会

(1) 夏季所員學習會

- 日 時 令和6年7月30日（火）14:00～16:30
○ 内 容
・ 講 義

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業の在り方について
講 師 北海道教育大学旭川校准教授 山 中 謙 司 氏

- 交流 • 協議

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業について

(2) 冬季所員學習會

- 日 時 11月21日（木） 14:00～16:30（予定）
○ 内 容
・ 講 義

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業
～ICTの効果的な活用の実際から考える～（仮）

講 師 信州大学学術研究院教育学系准教授 佐 藤 和 紀 氏
(学校DX戦略アドバイザー)

- ・交流・協議

Ⅳ 記念講演 第1日 8月29日（木）14:45～16:30

演 題 「一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて」
～自立した学習者を育成するための教育研究所・研修センターの在り方～

講 師 国立教育政策研究所初等中等教育研究部長 藤 原 文 雄 様

V 対話・演習 第2日 8月30日（金）9:45～12:05

タイトル 「『研修観の転換』の実現に向けて」

講師	独立行政法人教職員支援機構審議役	佐野 壽 則 様
	独立行政法人教職員支援機構研修プロデューサー	佐藤 悠 人 様
	独立行政法人教職員支援機構特別研修員	森 茂 之 様

VI 大会役員一覧

大 会 長	川 端 香代子	北海道教育研究所連盟委員長（北海道立教育研究所長）
副 大 会 長	菅 野 智 宏	北海道教育研究所連盟副委員長（札幌市教育センター所長）
	北 野 浩 幸	北海道教育研究所連盟副委員長（網走地方教育研修センター所長）
	佐 藤 淳	北海道教育研究所連盟副委員長（胆振教育研究所長）

【北海道教育研究所連盟事務局】

事 務 局 長	奥 寺 正 史	（北海道立教育研究所副所長）
事務局次長	菊 池 淳 圭	（北海道立教育研究所総務部長）
	成 田 仁	（北海道立教育研究所人材育成部長）
事 務 主 幹	飯 沼 恭 子	（北海道立教育研究所総務部事業課長）
研 究 主 幹	市 村 慈 規	（北海道立教育研究所教育課題研究部研究主幹）
事 務 局 員	土 山 真 紀	（北海道立教育研究所総務部事業課主査）
	小 野 晴 子	（北海道立教育研究所教育課題研究部主査）
	野 家 義 和	（北海道立教育研究所教育課題研究部主査）
	吉 村 暢 起	（北海道立教育研究所教育課題研究部研究研修主事）
	佐々木 祥 悟	（北海道立教育研究所教育課題研究部研究研修主事）
	大 橋 龍	（北海道立教育研究所総務部事業課主任）

【運営委員会】

委 員 長	北 野 浩 幸	（網走地方教育研修センター所長）
副 委 員 長	高 橋 拓 幹	（網走地方教育研修センター主任研究員）
事 務 局 長	林 幸 一	（網走地方教育研修センター組合事務次長）
委 員	米 倉 完	林 奨太郎 成 田 典 央 寺 岡 侑 亮
	内 田 梓	阿知波 衛 山 本 千 聖 大 平 瑠 夏
	的 場 暁 代	山 田 ちかげ （網走地方教育研修センター研究員等）

【令和6年度(2024年度)共同研究推進委員会】

委 員 長	米 倉 完	（網走地方教育研修センター研究員）
副 委 員 長	吉 村 暢 起	（北海道立教育研究所教育課題研究部研究研修主事）
委 員	武 田 寛 史	（石狩教育研修センター指導員）
	寺 田 恵	（空知教育センター所員）
	林 尚 輝	（上川教育研修センター研究員）
	石戸谷 和 利	（宗谷教育研修センター所員）
	石 井 望	（渡島教育研究所員）
	黒 川 知 恵	（胆振教育研究所事務局次長）
	水 口 拓 真	（根室教育研究所主任）
	横 内 のぞみ	（札幌市教育センター指導主事）
	芳 賀 均	（北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター員）
	佐々木 祥 悟	（北海道立教育研究所教育課題研究部研究研修主事）